

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月13日

協議会名: 熊谷市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
国際十王交通株式会社	<p>運行系統名: 江南地区路線「ほたる号」 【概要】一般乗合旅客自動車運送事業 【運行日】平成23年10月1日運行開始。毎日運行。ただし、1月1日から1月3日まで運休。 【運行時間帯】6:18～19:25 【運行本数】1日5.5往復 【運行ルート】江南行政センター～熊谷駅南口～江南行政センター～籠原駅南口～江南行政センター(22.87Km) 【運行車両】ノンステップバス1台※国庫補助金「車両原価償却費等」あり 【運賃】(1)1回の運賃 100円(2)1日乗車券 300円(3)回数券(11枚綴り)1,000円(4)運賃の免除について 未就学児、障害者手帳(3種)所持者及びその介助・付添人1人、運転免許自主返納者(無料乗車証か運転経歴証明書の提示)</p>	<p>・バスマップを増刷、配布し、周知に努めた。 ・バスロケーションシステムについて、検索操作を簡素化し、利便性の向上を図った。</p>	A <p>感染症の影響による収入の減少や燃料費の高騰が重なったこともあり、収支の悪化が懸念される中、計画どおりに事業が開始され、感染症対策を行いこれまでどおりの運行した。</p>	C <p>【年間利用者数】 (R3.10.1～R4.9.30) 《目標》 25,529人 《実績》 24,595人 前年より利用者数は増加したが、目標値の96%だった。コロナ禍前の年間3万人に戻る気配はない。</p>	<p>【既に実施した利用促進策】 ・「江南地区路線」の愛称、イラストを公募し、新規車両の納車に合わせ、ラッピングを施工した。 ・江南地区の地元自治会と一緒に周知を行い、更なる利用者の増加に努めた。 【今後の改善点】 ・近隣を運行している路線バスも利用者が減少したままの状態となっており、路線バス等と新たな乗り継ぎポイントを検討するなど、既存の公共交通を補完、連携しながら地域の利便性を高めるための施策の検討を行い、互いの維持に努める。</p>

<p>地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)</p>	<p>バスマップの配布や「江南地区路線」の愛称イラストを公募するなどの周知活動を行ったことや、バスロケーションシステムの検索操作を簡素化したことによる利便性の向上などの取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。</p>
--------------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月31日

協議会名: 加須市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
事業者名:朝日自動車(株)	<p>【シャトルバスの運行】</p> <p>令和3年12月まで新古河駅西口～プラザきさい(騎西総合支所)</p> <p>令和4年1月から新古河駅西口～加須駅南口</p> <p>令和4年6月から新古河駅西口～済生会加須病院</p>	<p>・シャトルバスの利用促進を図るため、利用料金を一定期間(R4.3.19～R4.3.26)無料とすることで、バスを利用するきっかけづくりをした。</p> <p>・令和4年1月にルート変更を行い、全戸配布のチラシで周知することで、利用促進を図った。</p> <p>・令和4年6月に、加須駅南口に埼玉県済生会加須病院が開院し、新病院へのシャトルバスの乗り入れを含め、運行経路全体の見直しを行い、利便性の向上を図った。</p>	A	<p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p> <p>・市の北部から南部までを結ぶシャトルバスの運行により、市内の鉄道間の連携及び市の一体性が図られている。</p> <p>・各フィーダー系統については、利用状況や意見等を踏まえて必要に応じ改善を図っている。</p>	B	<p>令和4年度の1日平均利用者は12.3人であり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあるなか、前年度の11.6%よりも増加し、目標である13人に対する達成割合は94.6%であった。</p> <p>市民ニーズや利用状況を分析の上、運行経路やバス停留所の見直しについて検証し、より利用しやすいシャトルバスの運行改善に努める。</p>
事業者名:朝日自動車(株)、加須タクシー(株)、騎西タクシー(有)	<p>【デマンド型乗合タクシーの運行】</p> <p>加須市全域及び久喜市内栗橋駅西口</p>	<p>・デマンド型乗合タクシーの更なる周知のため、市ホームページ(https://www.city.kazo.lg.jp/shiki/seisaku_chousei/koutsuu/4889.html)において情報掲載をした。</p> <p>・令和4年1月に、運行する車両数を6台体制から8台体制にし、利便性の向上を図った。</p> <p>・令和4年6月に、加須駅南口に埼玉県済生会加須病院が開院し、新病院へデマンド型乗合タクシーの乗り入れを開始し、エリア外からも乗り換え不要のポイントにすることで、更なる利便性の向上を図った。</p>	A	<p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p> <p>・市全域等におけるデマンド型乗合タクシーの運行により、交通弱者の移動手段の確保や公共交通不便地域の解消が図られている。</p> <p>・各フィーダー系統については、利用状況や意見等を踏まえて必要に応じ改善を図っている。</p>	A	<p>令和4年9月末時点での利用登録者数は、16,954人であり、目標である16,500人に対する達成割合は102.8%であった。</p> <p>令和4年度の1日平均利用者は103.5人であり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあるなか、前年度の90.8人よりも増加し、目標である100人に対する達成割合は103.5%であった。</p> <p>運転免許証の自主返納者が増加傾向であることを踏まえ、デマンド型乗合タクシーに対するニーズはますます増えていくと思われる。</p>
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>デマンド型乗合タクシーは、増車や病院開設に伴い運行内容を変更し利便性を向上したことや、HPでの周知活動などに取り組み、利用者数の目標を達成されたことを評価する。</p> <p>一方で、シャトルバスの利用者数の目標は未達成となった。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <p>・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。</p> <p>・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。</p>					

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月23日

協議会名: 本庄市交通政策協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
朝日自動車株式会社	本庄北地域デマンド	○評価検証の一環としてアンケートを実施した。 ○HPや駅自由通路に利用案内を掲載し、利便性の向上と利用促進を継続して図った。 ○デマンド交通の利便性を向上させるため、住民同士の支え合いを考える場(生活支援体制整備協議体)に参加し、情報交換を行った。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	目標利用者数:13,000人 R4年度利用者数:10,680人 目標利用者満足度 満足 85%以上 不満足 現状より減少 R4年度利用者満足度 満足 60% 普通 32% 不満 8% 無回答 0%	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外出を控えるといった行動変化が利用者数に表れているが、移動手段を持たない交通弱者にとって買物、通院といった日常の足となっているデマンドバスは、コロナ禍にあっても一定の利用がある。 今後は、地域公共交通計画の策定(令和5年3月予定)により、予約システムの改善や運行形態の見直しなど利便性の向上と利用者の増加につながる取組を検討していく。
	本庄南地域デマンド		A		目標に対する実利用者数の割合は82.2%で、利用者数は前年度比8.9%増となった。 アンケート調査において、満足は前年度と比べ8%減、不満については前年度と同じ8%となっている。利用者数は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、減少傾向にあったが、R4年度は回復しつつあり、移動手段を持たない高齢者等、交通弱者の移動手段としての役割を果たしている。	
	児玉市街地デマンド		A		目標に対する実利用者数の割合は69.8%で、前年度比12.1%増となった。前年度と比べ満足の割合は8%減少したが、不満は前年度同様2%と低い。利用者数は新型コロナウイルスの影響により、減少傾向にあったが、R4年度は鉄道利用者数の回復により、交通結節点(本庄駅、本庄早稲田駅)を結ぶ本路線の利用者も回復しつつある。	
	児玉山間地域デマンド		A		目標利用者数:16,000人 R4年度利用者数:11,160人 目標利用者満足度 満足 85%以上 不満足 現状より減少 R4年度利用者満足度 満足 35% 普通 53% 不満 2% 無回答 10%	
本庄観光株式会社	本庄シャトル便	○評価検証の一環としてアンケートを実施した。 ○HPや駅自由通路に利用案内を掲載し、利便性の向上と利用促進を継続して図った。 ○時刻表の見直し(令和4年10月1日改定)により、利便性を向上させるため、準備を進めた。	A	目標利用者数:16,000人 R4年度利用者数:11,160人 目標利用者満足度 満足 85%以上 不満足 現状より減少 R4年度利用者満足度 満足 35% 普通 53% 不満 2% 無回答 10%	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外出を控えるといった行動変化が利用者数に表れているが、鉄道利用者数の回復により、交通結節点(本庄駅、本庄早稲田駅)を結ぶ本路線の利用者も回復しつつある。 今後は、地域公共交通計画の策定(令和5年3月予定)により、時刻表の定期的な見直しやICカードの導入など利便性の向上と利用者の増加につながる取組を検討していく。	

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)
 HPや駅自由通路に利用案内を掲載し、利便性の向上と利用促進に取り組んだことや、住民との情報交換、運行ダイヤの見直しなどの取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。
 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。
 ・事業者と自治体との間に対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。
 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月31日

協議会名: 深谷市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
花園観光バス(株)	【R3.10.1～R4.9.30】 北部シャトル便: ①深谷駅北口ー深谷警察署(西)、大寄公民館ー渋沢栄一記念館 ②深谷駅北口ー新井郵便局前、福寿荘前ー新戒(車両減価償却費等国庫補助金申請系統)	・市民アンケート、公共交通利用者ヒアリング調査の実施。 ・深谷市地域公共交通網形成計画の進行管理 ・深谷市コミュニティバス「くるりん」再編計画の進行管理 ・深谷市コミュニティバス「くるりん」デマンドバス再編計画の進行管理	A 計画どおり事業は適切に実施された。	【目標1:利用者数の増加】 (目標)68,875人 (実績)40,006人 【目標2:利用者満足度の向上】 (目標)利用者アンケートで各項目とも前年度調査以上の満足度(実績)13項目中、11項目達成 【目標3:収支率の向上】 (目標)15.5% (実績)10.7% 利用者満足度は概ね目標を達成できた。	新型コロナウイルス感染症の影響により減少した利用者数は徐々に回復が見られているが、今後も感染症対策に配慮した安心・安全なコミュニティバス運行を継続する。 また、利用者満足度の上昇については概ね目標を達成したが、満足度の向上が見られなかったデマンドバスの運行時間など、改善すべき項目については今後も調査を継続し、必要に応じて増便等の対応を検討していく。 今後も地域における望ましい公共交通ネットワークを示すため、感染症対策に配慮したコミュニティバス運行に努めるとともに、利用者満足度の更なる向上を目指し、適宜再編運行を実施していく。
	【R3.10.1～R4.3.31】 北部デマンド 南部デマンド				
深谷タクシー(有)	【R3.10.1～R4.3.31】 岡部デマンド 川本デマンド 花園デマンド 【R4.4.1～R4.9.30】 北部デマンド 西部デマンド	A 計画どおり事業は適切に実施された。	利用者数及び収支率は共に目標を達成することができなかったが、昨年度から大幅に数値が改善し、新型コロナウイルス感染症の影響による利用者の減少は徐々に回復しているものと思われる。		
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	市民アンケート、公共交通利用者ヒアリング調査の実施などの取組は評価できるが、利用者数の増加や収支率の向上の目標は未達成となった。昨年度から大幅に数値が改善しているため、引き続き今後の施策の検討を進めていただきたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月30日

協議会名: 白岡市地域公共交通確保維持改善協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
昭和タクシー有限公司	<p>【デマンド交通「のりあい交通」】 事業者名: 昭和タクシー 運行区域: 白岡市内及び蓮田病院 運行日: 月曜～土曜(祝日、年末年始運休) 運行時間帯: 8時30分～17時30分 運行本数: 9便/日 運行車両: セダン型車両 運賃: 500円(障害者、小学生は300円、乗り合い利用の割引制度あり)</p>	<p>パンフレットの全戸配布を行い、のりあい交通の制度について周知を図った。 令和3年4月からは、利用者の多い午前中の1～4便について1台増車し、3台運行を行い輸送力の強化を図った。</p>	A	<p>計画に基づき、適切に実施した。</p> <p>B</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できない点があった。 【目標】 ①1日当たりの利用者数41人 ②収支率18%以上 ③月曜日から金曜日までは、1日当たり2人以上利用者増。 【実績】 ①1日当たりの利用者数42人 ②収支率16, 7% ③水曜日以外は前年と比較して2人以上増となった。 【分析】 午後の時間が進むにつれ利用者が減少している。病院や買い物での利用が多く午前中に外出する人が多いものと考えられる。</p>	<p>午前中は利用者が多く、予約不成立となることもあり、課題の一つになっている。 令和4年10月に実施したアンケート調査の結果を踏まえ、今後の運行のあり方を考えていく。 また、今後街頭啓発活動や地域に出向いて出前講座を行うなど、潜在的利用者に対する制度のPRに努めていく。 引き続き、市民ニーズを的確に把握し、目的地を追加するなど、利用者にとってより利便性の高いものにしていく。</p>

<p>地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)</p>	<p>パンフレットによる住民周知など利用促進を行った取組は評価できるが、収支率の目標は未達成となった。地域に路線バスが新たに運行するなど、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、利用促進に関するイベント等を実施できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。</p>
--------------------------------	---

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月13日

協議会名: 鳩山町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)越生タクシー	デマンド型交通「はとタク」 ●営業区域:鳩山町全域+町外乗降所(毛呂山町埼玉医大・坂戸市につき商業施設3箇所・北坂戸1箇所) ●運行日:毛呂山町埼玉医大行きは祝日及び年末年始を除く月曜～金曜、その他は祝日及び年末年始を除く毎日 ●運行時間帯:埼玉医大行きは7時～、その他は8時～17時 ●運賃:町内200円、坂戸市につき300円、北坂戸600円、毛呂山町埼玉医大600円	●「利用促進・利用者ニーズを把握し、運行内容の見直しを進めて頂きたい」との評価結果を受け、別紙のとおり、はとやま公共交通マップ、町HP、町広報紙(期間内5回)で利用促進した。 また、鳩山町公共交通ニーズに関する全戸配布アンケート調査に基づき令和4年4月から町外乗降所を4か所増やし、土日運行も開始する見直しを行った。 併せて利用促進のため、土日当日電話予約受付、インターネットによる365日受付も開始した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【指標】デマンドタクシー1日平均利用者数 ・実績:76.62人(目標値:74.0人) ※令和4年4月以前は、祝日を除く平日のみ3台運行で、令和4年4月以降は、祝日を除く平日のみ1台運行、祝日を除く毎日3台運行 ●平日運行車両 (1,868+1,731)人÷(120+123)日=14.81人/日 ●毎日運行車両 (8,202+10,033)人÷(120+175)日=61.81人/日 ※合計14.81+61.81=76.62人/日	令和4年4月から新たに運行を開始した町外・土日運行の利用が芳しくなく、(特に土曜日の利用が少なく)、平均利用者数の引き下げ要因になっている。 そこで、引き続き、土日及び町外乗降所の利用促進の広報等を行うことで、利用者増につなげる。 また、このままの状況が続けば、土日運行台数の検討を行う。
		●「収支を意識し、サステナビリティを確保していくことが重要」との評価結果を受け、全戸配布アンケートで意見を聞いたうえで、利用者数が少ない町内循環バスの運行を令和4年3月末で終了し、その運行費用を、令和4年4月からのデマンドタクシーの改善費用に転換した。 また、同アンケートで持続可能な運行のために負担できる運賃を聞いたうえで、運賃を引上げた。 また、これまで、回数券やお買物券の附帯により、実質的に2割引ぎしていた運賃を、定価に改め、キャッシュレス決済に対応できるようにした。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。		
		●「地域公共交通計画策定に取り組まれない」との評価結果を受け、令和4年12月2日に、「令和5年度地域公共交通計画策定に係る補助金要望調査」にエントリーした。	令和4年度には運行変更があったので、「地域公共交通計画の策定」を令和4年度の計画には位置付けていなかった。	-	-
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	昨年度の事業評価を踏まえ、利用者が少ない町内循環バスの運行を終了しその原資をデマンドタクシーの改善費用に転換した取組で、利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、利用促進に関するイベント等を実施できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年 1月 20日

協議会名: ときがわ町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社越生タクシー	おでかけワゴン 「おはよう時間便」	稼働率30%の目標達成について評価していただき、今年度についても継続した運行が実施できていると考える。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	A 令和4年6月に3系統の運行を1系統に統合した。また、目標稼働率30%以上に対して282%の稼働率があった。計画のとおり結果となった。	運行開始から2年が経過し、利用者登録が増加してきている。しかし、運行区域が町内全域(町西部)に達していない状況である。高齢化が進むときがわ町西部の交通空白地帯の解消に取り組んでいきたい。
株式会社越生タクシー	おでかけワゴン 「おでかけ時間便」	稼働率30%の目標達成について評価していただき、今年度についても継続した運行が実施できていると考える。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	A 令和4年6月に3系統の運行を1系統に統合した。目標稼働率30%以上に対して58.4%の稼働率があった。計画のとおり結果となった。	運行開始から2年が経過し、利用者登録が増加してきている。しかし、運行区域が町内全域(町西部)に達していない状況である。高齢化が進むときがわ町西部の交通空白地帯の解消に取り組んでいきたい。
株式会社越生タクシー	おでかけワゴン 「おかえり時間便」	稼働率30%の目標達成について評価していただき、今年度についても継続した運行が実施できていると考える。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	B 令和4年6月に3系統の運行を1系統に統合した。目標稼働率30%以上には届かなかったが21.3%の稼働率があった。前年に比べると9ポイント上昇することができた。	運行開始から2年が経過し、利用者登録が増加してきている。しかし、運行区域が町内全域(町西部)に達していない状況である。高齢化が進むときがわ町西部の交通空白地帯の解消に取り組んでいきたい。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>利便性向上のため3系統の運行を1系統に統合したことや、町外の病院への運行を開始するなどの取組で、稼働率30%の目標を一部達成されたことを評価する。</p> <p>しかしながら、稼働率にとらわれず乗合率の向上を目指して効率的な運行を目指していただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、利用促進に関するイベント等を実施できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
---------------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月31日

協議会名: 小鹿野町地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
秩父丸通タクシー株式会社	<p>運行系統名: 小鹿野伊豆沢長若乗合タクシー</p> <p>本乗合タクシー運行事業は、主に小鹿野町の交通空白地域を含めた地域を運行し、西武鉄道・西武秩父駅及び秩父鉄道・秩父駅から町内へと運行している西武観光バス小鹿野線の複数の停留所と接続し、町営バスとの接続や地域内の高齢者・障害者を中心とした利便性向上を図るものである。</p>	<p>前回の評価結果では、現状の運行体制を維持し、利用促進のためのPRを行うこと及び現状で運行していない交通空白地域等にも運行エリアを拡大するなど運行体制の見直しを行うこととしていた。令和2年度に両神地区の乗降ポイントの追加や当日予約の開始ができるように変更を行い利便性を向上させ、利用者を増加することができた。また、77歳以上バス優待券申請時や広報誌への掲載、区長協議会への乗合タクシーのPRを実施した。公共交通空白地域等における運行範囲の拡大については、当地域が他市町村との連携による運行の可能性もあることや、町全域が過疎地域に指定されていて、交通空白地有償運送の活用が可能のため、人口減少等による公共交通のあり方の見直しの時期でもあることから、乗合タクシーに限らず、公共交通全体の見直しを行う中で適切な運行範囲の見極めを行うこととする。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置づけられた目標である利用者数を達成できた。 【目標】 年間利用者数 2,000人 【実績】 2,584人 【分析】 当日予約が可能になり利便性が向上した。また、障害者や77歳以上の高齢者に対して高齢者バス優待券の発行を行なうことで、利用者を増加することができた。	<p>運行開始から9年が経過するが、新規利用者が少なく、利用者が固定化傾向にある。地域住民からの要望があった両神地区への乗降ポイントの追加や当日予約が令和3年3月から開始可能になるなど利便性を向上させ、利用者を増加することができた。</p> <p>今後は、新規利用者数が少ないことや、待機時間が長くなっているため、新規利用者の促進のためPRを行い、余剰の時間には観光客利用の実現や運行区域の拡大などを視野に入れ、多くの方に利用される公共交通となるよう改善を図る。また、乗合タクシーの認知度の向上と利用促進等の広報活動を推進する。</p>

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

障害者や77歳以上の高齢者に対して高齢者バス優待券の発行を行などの取り組まれ、年間利用者数の目標を達成されたことを評価する。引き続き利用促進を進めて頂きたい。
第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。
・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。
・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、利用促進に関するイベント等を実施できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月23日

協議会名: 寄居町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社本間タクシー 株式会社桜交通 大信観光花園有限会社	「愛のリタクシー」 運行方式:フルデマンド型乗合 タクシー 運行区域:町内全域 運行日:毎日(12/29~1/3を除く) 運行時間帯:8時~17時 料金:300円/人・回	利用状況のデータを蓄積・分析するとともに利用率向上に向けた検討を行った。 HP等の情報の見直しや発信を積極的に行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B R4(R3.10~R4.9)事業 ○目標 ・利用者数…48人/日 ・収支率…19.0% ○達成状況 ・利用者数 43.9人/日 ・相乗り率 54.9% ・収支率 16.0% ・収支差 21,119千円 (運行経費 25,139千円) (収益 4,020千円)	利用者数、収支率ともに目標値を達成することはできなかったが、いずれも前年度実績を上回った。 年間利用者数が約800人の増となり収益は回復基調にあるが、人件費等の運行経費も増加しており、収支率の改善は0.4ポイントにとどまっている。 利用者数増のため、運行情報などの広報を実施し、引き続き利用しやすい環境づくりを目指す。 また収支率改善のため、利便性が低下することを最小限としつつ、効率的な運行を検討していく。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	HP等の情報の見直しや発信を積極的に行った取組は評価できるが、利用者数や収益率の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
---------------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月10日

協議会名: 毛呂山町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社越生タクシー	<p>①コミュニティバス「町内循環バス(もろバス)ゆず号1コース」 系統: 役場～鎌北湖～役場(17.5km) 運行回数: 4回/1日</p> <p>②コミュニティバス「町内循環バス(もろバス)ゆず号2コース」 系統1: 役場～もろびとの館～役場(19.5km) 系統2: 役場～もろびとの館～役場(9.9km) 運行回数: 系統1 2回/1日 系統2 1回/1日 運賃: 100円</p>	住民アンケート調査や地域状況の分析等の結果から発現した課題を踏まえ、令和3年3月に毛呂山町生活交通確保維持改善計画(改訂)を策定した。策定した計画の内容に基づき、令和3年10月から町内循環バス(もろバス)の運行見直しを実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	<p>事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった。</p> <p>【目標】 ①利用者数 118人/1日 ②往復利用者割合 69% ③利用者満足度 57%</p> <p>【実績】 ①利用者数 75.1人/1日 ②往復利用者割合 69% ③利用者満足度 40%</p> <p>※1 ①は運行実績、②③は町内循環バス(もろバス)利用者アンケートより集計</p> <p>【分析】 新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ禍前と比較して利用者数が減少しており、目標達成に至らなかった。往復利用の割合については、令和3年10月に実施した運行見直しによる効果もあり目標を達成することができたものの、ルートの見直し等による一部停留所の運行頻度の低下の影響もあり、利用者満足度については目標を達成することができなかったと考えられる。</p>	令和4年度は地域公共交通計画の策定に向け、町民アンケートや利用者アンケート、高齢者アンケートを実施しており、町民のニーズの把握等を行った。新型コロナウイルス感染症に伴う生活様式の変化等により、コロナ禍以前の利用者数への回復は難しいと考えられるが、町民ニーズに合ったコミュニティバスとなるよう町内循環バス(もろバス)の再編及び地域公共交通計画の策定に取り組み、利用者数の増加や満足度の向上に努めたい。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>免許返納者や身体障害者手帳等を持っている人は無料で乗車できる等、交通弱者にとって負担にならないような乗車料金の設定などの取組は評価できるが、利用者数や満足度の目標は未達成となった。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者と自治体との間に対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。
-------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月19日

協議会名: 幸手市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーター系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社東埼玉観光バス	デマンド型交通 「幸手市デマンド交通」 運行区域:幸手市内全域 運行日:月曜～土曜(日曜、祝日、年末年始運休) 運行時間帯:8時～18時 運賃:1回 500円 ※回数券、割引運賃あり	デマンド交通の利用者増を図るため、利用者の希望する時間帯に予約が取れない場合は、空きがある時間帯を積極的にご案内する等、オペレーションの改善に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 【目標1:年間利用者数】(目標)1,790人(実績)1,741人 【目標2:利用者1人当たりの市負担額】(目標)3,711.3円(実績)3,849.8円(分析) 依然として新型コロナウイルス感染症の影響による不要不急の外出自粛が要因となり、目標を達成することはできなかった。 一方で利用者に対して通院や買い物等の日常生活を支える移動手段を確保するという役割は果たすことができた。	令和4年1月から定時路線型の市内循環バスの運行に移した。
中田商会株式会社	コミュニティバス 「幸手市市内循環バス」 系統:中央コース(11.6km)、東Aコース(20.6km)、東Bコース(16.8km)、西Aコース(17km)、西Bコース(12.4km) 運行回数:(中央)8便/日(東A・東B・西A・西B)4便/日 運賃:1乗車(大人)200円 ※1日乗車券、割引運賃あり	「目的達成のための施策を多角的に検討を」との評価結果を受け、増加する高齢者を中心とした市民の日常生活を支える足となる公共交通網を確保するという目的のもと、市内循環バスの利用者増を図るため、下記の取組を実施した。 ①路線図や時刻表等を掲載したパンフレットを作成し、市広報紙への折込による全戸配布、市内公共施設等での配布 ②運行開始をお知らせするポスターの作成及び市公共施設等への掲示 ③希望者へのマイ時刻表の作成 ④市広報紙への記事掲載(運行開始のお知らせ、市内循環バスを使って幸手を楽しむモデルコースのご案内) ⑤ナビタイムにおける市内循環バスのインターネット検索環境の提供 ⑥民間路線バスとの乗継円滑化を図るため、停留所相互への案内表示 ⑦市内循環バスの利用者が賛同をいただいた企業又は店舗のご厚意により、各種割引やポイント優遇、優待特典、待合スペースの利用などの様々なサービスが受けられる循環バス利用者優待制度(ハビノリ応援ショップ制度)の実施 ⑧市内循環バスとしてより認識してもらい、親しみをもっていただくためのワゴン車両へのさっちゃんイラスト表示	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 【目標1:年間利用者数】(目標)19,162人(実績)14,714人 【目標2:利用者1人当たりの市負担額】(目標)1,551.5円(実績)2,156.8円 新型コロナウイルス感染症の影響による不要不急の外出自粛に加え、令和4年1月から新たに運行を開始し、市内循環バスの市民への周知にも時間を要することから、目標には届かなかった。 それでも、令和4年3月にまん延防止等重点措置が解除された以降は、周知及び利用促進の取組による効果も表れ、月を遡うことに利用者人数は増加傾向、利用者1人当たりの市負担額も減少傾向となっていることは評価できる。 また、利用者の通院や買い物等の日常生活を支える移動手段を確保するという役割は果たすことができた。	利用者数の増加傾向の結果から、令和4年度事業で実施した周知・利用促進の取組による一定の効果があったものと考えられる。 令和5年度事業では、令和4年10月に市民まつりでの循環バス車両の展示・広報・アンケートの実施、令和4年11月からは循環バスの乗車きかけの創出及びハビノリ応援ショップ数の拡大を図るため、市内循環バスの1日乗車券を購入された利用者に対し、ハビノリ応援ショップで使用ができるクーポン券を配布する(ハビノリ強化事業)等、周知・利用促進を図るための新たな取組を実施しているところである。 今後も利用促進につながる取組を多角的に検討・実施していきたい。 また、市内循環バスの路線・停留所・便数等の運行内容について、運行開始後から利用者を中心に様々なご意見をいただいております。令和4年4月からはバス車内での利用者アンケート、令和5年1月からは運転免許返納者に対する移動手段等についてのアンケートも実施している。今後、地域公共交通計画の策定に向けた公共交通に関する市民アンケートの実施も予定していることから、市内循環バスの周知・利用促進の取組と併せて、市民ニーズの把握にも努めていきたい。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	運行開始のお知らせ、市内循環バスを使って幸手を楽しむモデルコースのご案内や、インターネット検索環境の提供による利便性向上などの取組は評価できるが、利用者数及び市の負担額の目標は未達成となった。市民への周知にも時間を要することから、引き続き目標達成に向けて取り組んでいただきたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月20日

協議会名: 上里町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社協同バス	中央ルート 北部ルート 南部ルート	<p>利用者アンケート調査、利用者OD調査については、実施した。</p> <p>高齢者へのコミュニティバスの利用促進支援事業として実施している高齢者無料パスについては、交付対象者要件の変更により、発行件数が伸びた。交付者へは、交通安全講習会への参加が必須となるため、交通安全講習会開催時にバスの利用案内を積極的に実施していく。</p> <p>また、コミュニティバス車内への有料広告掲載についても始動し、広報やHPで募集をするとともに、バス停付近の商業施設へ個別訪問し掲載依頼をした。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。</p> <p>【目標】 ①年間利用者数 19,300人 ②高齢者無料パスの発行件数 83人</p> <p>【実績】 ①年間利用者数 14,489人 ②高齢者無料パスの発行件数 117人</p> <p>【分析】 利用者数は昨年(13,335人)よりも増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大以前の利用者数より少なく、新型コロナウイルス感染症の影響は大きい。また、令和3年3月実施した支線ルートのルート再編の影響も考えられる。 高齢者無料パスについては、対象年齢の引き下げに伴い発行件数が伸びた。</p>	<p>高齢者無料パス交付者数は増加しているものの、利用者の増加に至っていないため、利用者ニーズに対応した「わたしの時刻表」を活用を周知し、バス利用を積極的に促していく。</p> <p>毎月、発行される広報へのバス関連記事の掲載に対する反響は大きいため、定期的にバス関連記事を掲載し、移動手段としての認知度を高めるよう努めていく。</p> <p>駅を中心とした、まちづくりと連携し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現に向け、次期公共交通の運行形態についても検討していく。</p> <p>持続可能な公共交通を実現するため、財源の確保を目的とした、コミュニティバス車内への広告掲載についても工夫していく。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>高齢者へのコミュニティバスの利用促進支援事業として実施している高齢者無料パス発行の取組について、交付要件を変更したことによる発行枚数の増加については評価できるが、年間利用者数の目標は未達成となった。利用が伸び悩んだ理由の分析結果を踏まえて、今後の施策の検討を進めていただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、利用促進に関するイベント等を実施できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	---

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月30日

協議会名: 飯能市地域公共交通対策協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西武ハイヤー株式会社	飯能市乗合ワゴン 愛称:おでかけむーま号 系統:3系統(精明東・精明西・加治) 運行日:月・水・金 運賃:一律200円(各種割引あり) 車両:10人乗りワゴン(定員9人)	—	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 目標① 1便当たり平均利用者数(全系統合計) 目標値 5人以上 実績値 3.71人【未達】 目標② 収支率(経常経費に対する経常収入の割合) 目標値 20%以上 実績値 15.03%【未達】 ▶利便性向上による利用者の増加、運行収入以外の収入源の確保を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス決済の導入 ・より利便性の高い経路の検討 ・スマホ等での運行経路の検索 ・運行収入以外の収入源確保
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>地域住民の意見を十分に反映するため地区検討会を開催したことや、沿線施設における運行周知のため沿線施設にワゴンの停留所位置の案内を掲示したことは評価できるが、利用者数及び収支率の目標は未達成となった。</p> <p>また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <p>・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、利用促進に関するイベント等を実施できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。</p>				